

結果から考える るために

町では、「高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画」を検討するために、町内の65歳以上で無作為抽出した650人に保健福祉施策などの地域課題を把握するため、調査を行いました。

今回は、調査の回答結果をお知らせするとともにおけとで暮らし続けるための課題を考えます。

いきいきライフフェスティバル講演・座談会を通して

今を考え、将来を豊かにする

10月14日、中央公民館で町主催のいきいきライフフェスティバルが開催され、112人の参加がありました。今回は、北海道総合福祉研究センター事務局長の池田ひろみ氏をお招きし、講演と座談会を行いました。「置戸町で自分らしく暮らすために」を演題として池田事務局長が基調講演を行った後、地域で暮らし続けるために必要なことや困っていることなどを、参加者が6人程度、17のグループに分かれ、様々な意見や問題を出し合い、解決方法などを話し合いました。



人は、誰かを支え、誰かに支えられる

池田事務局長は、「5年後、10年後を考え、自分がどこでどのようにして誰と生きているのかを予想してみしてほしい。予想することで、これから自分に何ができるのか、何が必要になるのかを考えるきっかけとなる。そして、自分が支える側あるときに、支えるためのシステムを構築しておく、今後、自分が支えられる側になったときに利用しやすい」と話しました。

「一人暮らしと孤立は違うもの。助けを求める相手もなく、誰にも相談できなくなる心の孤立は、長い年月をかけて人間関係がとぎれていくことで生まれる。孤立しない、孤立させないために地域の人たちと穏やかに話せるような人間関係を長く続けていくことが大切である。今、自分に何ができるのかを考えることで、将来を豊かにすることができると話し、地域で暮らし続けるためのヒントを与えてくれました。



参加者の意見・感想

- 除雪サービスはあっても、タイムリーに利用できない。
- ここにこの号の便数や乗降場所を増やしてほしい。
- 車で送迎をしてあげたい気持ちはあるが、事故が心配。
- 支援したい気持ちはあるが、地域の方に要望をきく方法がない。
- 話し相手、交流する場所がほしい。
- 困っていることは自分から発信することが大切。
- 普段、このように話し合うことが少ないので、勉強になった。
- 自分たちの地域で、できることがないか今後も考えたい。

今、私たちにできることを考えよう

地域福祉センターでは、10月27日から来年の1月までの間、計6回の「ささえあいパートナー養成講座」を開催。今の自分のため、家族のため、地域のため、そして、将来の自分のためにも置戸らしいささえあいの仕組みを、みなさんと考えていきます。

■今回の内容についてお問い合わせは、地域福祉センター（☎52-3333）まで